

## ミキ先生をしのんで

三 輪 萬 治

一、大学人としてともに生きて

過日突然武田ミキ先生の御訃報に接し、先生の御長寿を信じておりました私にとりましては、今更乍ら驚き且つ深い悲しみを感じました。

私が前職定年後広島の本学へ赴任いたしましたところ、先生より思いもかけず、「あなたのような若い方の努力を期待しています」との励ましをいただきました。再び氣力を取り戻して十年余りの年月を大過なく勤める事が、出来ました事はひとえに先生のお蔭に依るものと感謝いたしております。

学科会の折にも次々とポイントを得た御指導に依りまして、我々にとりましては緊張の日々でした。先生の時間厳守に依り規律正しく学生を導く事が出来まして我々も時にはお叱りを受ける事もございました。

学長室へ伺いました折に先ず椅子をすすめていただき、緊張感もとれてゆつくりと御意見を伺う事が出来ました。私事になりましたが、広島の可部に住居を求めまして落着きました折には先生には大変喜んでいただきまして、私も永住の心づもりでおりましたが、四年前に思いも寄らず病を得て老の身で療養生活をいただきます。心細くなり、長男の住む横須賀に移ってまいりました。その折にも御親切なる慰めのお言葉等を賜りまして、暖かいお心遣いを忘れる事は出来ません。何とか体調の回復をはかり、先生にお目にかかりまして御礼を申し上げ度く存じておりましたが私の体調も思うに任せず、残念に存じております。

此のような状態にて先日の御葬儀にも参列出来ませず、また二月に行われる武田学園葬にも欠席せざるを得ない事と思われます。誠に残念な事と日々悔んでおります次第でございます。

此の上は先生の御冥福と武田学園の御発展を祈念いたしております。